

令和7年度第2回学校運営協議会 記録

1 日時

令和8年2月3日（火）15:00～16:30

2 場所

本校会議室A

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員 10名（当日欠席の委員3名）

A氏（大学教授等）

B氏（大学教授等）

C氏（商工会代表）

D氏（学習活動施設代表）

E氏（学習活動施設代表）

F氏（NPO代表）

G氏（PTA代表）

H氏（PTA代表）

I氏（接続する学校の職員）

本校校長

(2) 本校職員9名

（校長）、副校長、事務長、総務部長、教務部長、生徒指導部長、進路指導部長、総合企画部長、スポーツ健康科学学系主任、国際科学学系主任

4 学校運営協議会内容

(1) 開会のことば

(2) 校長挨拶

昨年度の学校運営協議会で委員の方々からのご意見を参考にしながら、本校の特色化・魅力化ビジョン、いわゆるスクールポリシーを策定させていただきました。

今年度はこれを基にして、カリキュラムはもちろん、学校行事や地域イベントに参加するとともに、高校入試の方針等にも活用させていただきました。

本日は、高校魅力化の課題についてということで、第1回の会議で皆様からいただいた意見やご指摘をさらに深く検証したい。

(3) 委員・職員自己紹介

(4) 協議（議長：A氏）

(1) 本校の魅力化の課題について

①校長より資料説明

ア いわて留学による県外生徒募集の可能性について（資料P 1）

P 1

- ・現状の児童・生徒数について、花巻市内及び中部教育事務所管内の中学3年生と比較すると小学1年生の児童数は78%となっており、本校では1クラス分の減少に相当する。県教委でも第3期の県立高等学校再編計画を策定しており、中部地区でも花北青雲高校が令和10年度に工業科を募集停止、遠野緑峰高校が令和9年度に商業科を募集停止し、さらに遠野高校と令和11年度に合併予定である。黒沢尻工業高校は令和9年度に学科再編を行う。また、大迫高校は令和9年度に募集停止の予定となっている。
- ・いわて留学については今年度の応募は過去最高で13校で51名の応募があった。大迫高校では8名の生徒が応募している。大迫高校は自然体験や地域と協力した探究活動などの魅力がある。花巻市については、県外の中学生がイメージすることは、大谷翔平、宮沢賢治というところである。本校でも運動部、文化部の全国での活躍や、国際科学学系も設置されていることが特色としてあげられる。それをどのように全国の中学生たちに広めていくかといったところが課題である。
- ・実施の基準については①学校と地域の連携、②居住環境の体制構築、③県内生徒の学ぶ機会を妨げないこと、となっている。

イ 地域のイベントに生徒が主体的に関わる仕組づくりについて（資料P 2～3）

P 2、3

- ・3ページの参考資料の通り、多くの生徒が様々なイベントに参加している。ただ、単発なものが多いため、1年間や3年間という継続的なものにも参加できるとよい。
- ・ボランティア参加時にトラブルが起こるケースもあり、申込や参加の際のシステムやルールの構築の必要性を感じた。

ウ 国際交流を進めるための方策について（資料P 4）

- ・今年度ドイツのヴァイアホフ高校の生徒8名を受け入れた。ホストファミリーも実際にホームステイを受け入れてみると意外とハードルは低いと感じてもらえていると思う。来年度はドイツに行く予定になっているが、費用の問題で人数が限られてしまう可能性もある。

②質疑応答

【A氏】

いわて留学、地域との関わりについて、葛巻高校は他県から来た生徒が非常に打ち解けており、地元の生徒以上に地域で一生懸命活動しているという報告を聞いた。地域の生徒も県外の生徒の活動を見ることで再度地元を見直すきっかけにもなっている。

国際交流についてはOB・OG会に支援を求める形が良いのではないかな。

【B氏】

いわて留学については、先生に進められてではなく、自らの意思で志望し、東京から来た生徒の様子を聞いたが、周りとの学力差などの問題はあるものの、学校が活性化していい方向に進んでいるということであった。

国際交流については、ロータリークラブのように奨学金制度を活用すると参加しやすいのではないかなと思う。

【C氏】

いわて留学に関しては、私たちは制度活用に馴染みがないため、ハードルを勝手に高く感じてしまっているが、東京の方々にとっては、都会が合わずに地方に進学するようなケースはよくあるようなので花巻の環境を魅力に感じる方々もいらっしゃるのではないかなと思う。

地域イベントへの参加については、商工会議所青年部でも小学生から大学生まで自由に出店できるようなイベントを行っているので、うまく活用していただきたい。

【D氏】

いわて留学について、スポーツの観点からいくと、確かに花巻南高校はソフトボールをはじめ、昔からとても盛んな学校である。しかし、現状で県外からは恐らく保護者が一緒に岩手に来ないと困難である。また、私立高校と異なり指導者の転勤等で成績を継続させることが難しく、県立高校ではスポーツだけでは厳しいと思う。

【E氏】

国際交流については様々な体験、経験が得られるためとても良い事業であるが、花巻市国際交流協会としては中学生の派遣に力を入れており、選抜方法も厳しいため、成績等もかなり重要視している。また、トラブルも多く起こるため、事前のオリエンテーションも含めた準備が大切である。

【F氏】

いわて留学について、私は大迫高校の探究の授業やいわて留学生の生活のサポートをお手伝いしており、生徒募集のPRにも関わっているが、実際には体験の段階では10人ぐらいの県外の生徒が来ていた。それも保護者から行かされているのではなく、自分で自然豊かな環境で学びたいという生徒も多くいる。自分で選択しているため、生徒会の役員や部活動の部長を務めるなど積極的に学校生活を送っている。探究活動でも外部の大会で発表する生徒もいた。このような留学制度では3年間定着してもらうために、その地域での生活に不安なく過ごしていけるかどうか、相談できる支援員が近くにいるかどうかなどのバックアップ体制を整える必要がある。

地域イベントへの参加については、私も探究の時間で数年関わらせていただいて、外部の方に協力をお願いする場面でのルールの共有や電話のかけ方のシミュレーションなど研修会のようなものがあったほうが良いと感じている。

【G氏】

海外派遣については閑散期を狙って費用を抑えれば行きやすいのではないかと。

地域イベントへの参加については今年度中には次年度のボランティアの計画も学校の年間の計画も決まっているのだから、両方の予定を照らし合わせて、参加可能なボランティアを確認して見直しをもってボランティアに取り組むべきであると思う。

【H氏】

学童クラブの児童がダンスを習っていて、イベントに参加した際にオープニングで花南のダンス部が素晴らしいダンスを披露していて、児童たちも花南でダンス部に入りたいと言っていた。賢治祭などにも参加すると県外からも多くのファンが集まっており、どれだけ宮沢賢治が偉大な人物なのかを肌で感じることができる。

【I氏】

中学校では500人中70人が部活動無所属であり、他への所属替えや退部も若干程度見られる。ボランティアの参加率も低い。地域イベントへの参加については雪かきのボランティアや花巻まつりでの片付け、清掃など参加しやすいものはたくさんある。もっと外部へ出ていくことが大切である。

(2) 令和7年度学校評価の結果について

資料の通り。

① 質疑応答

【A氏】

せっかく外部での活動をしていて、学校への満足度も高いのに、情報発信が足りていないと感じるのはなぜなのか。保護者に求められている情報発信とは何なのか。

【F氏】

プレスリリースをもっと出して、新聞やテレビなどのメディアへの露出を増やしていくことで、自然とその話題が増加していくのではないかと。

【D氏】

現状、スポーツボランティアへの応募が少ない。ボランティアを前面に出していくのであれば、もっと参加して、参加していることをアピールしていくべきである。

(5) 報告

(1) ドイツのヴァイアホフ高校の本校訪問について

PTA 会報の特集記事を資料として報告する。学校内外で様々な体験活動を取り入れた計画を立案、実行することができた。受け入れ期間は学校内も国際交流をしているという雰囲気にも包まれていた一週間であり、生徒たちには良い刺激になっていた。

(2) 令和7年度3年生進路状況について

資料の通り

(3) 令和7年度部活動報告

ソフトボール部やバレー部の活躍に加えて、久しぶりにソフトテニス部のインターハイ出場や弓道部女子の県大会団体優勝も達成した。文化部も全国での活躍が見られた。ダンス部も大会はないものの様々なイベントへ積極的に参加している。また、ソフトボール部の佐藤絵鈴さんはU-18 日本代表として世界大会準優勝を果たし、今後の活躍が益々期待される選手である。

(6) その他

特になし

(7) 閉会